

## 関東森林管理局入札監視委員会審議概要

(ホームページ掲載日:平成 24年10月16日)

開催日及び場所		平成24年9月25日(火) 関東森林管理局 4階中会議室			
委員		紺 正行 (委員長・弁護士) 大泉 寛 (税理士) 若旅 俊洋 (ジャーナリスト)			
審議対象期間		平成24年4月1日～6月30日			
審議対象案件		349 件	うち、1者応札案件 102 件 契約の相手方が公益社団法人等の案件 12 件		
抽出案件		21 件 (抽出率 6.0%)	うち、1者応札案件 8 件 (抽出率 7.8%) 契約の相手方が公益社団法人等の案件 0 件 (抽出率 0%)		
抽出案件内訳	工事	一般競争	5 件	うち 1者応札 2 件 契約の相手方が公益社団法人等の案件 0 件	
		指名競争	公募型指名競争	該当なし	
			工事希望型競争	該当なし	
			その他の指名競争	該当なし	
	随意契約	0 件			
	業務	一般競争	5 件	うち、1者応札案件 2 件 契約の相手方が公益社団法人等の案件 0 件	
		指名競争	公募型競争	該当なし	
			簡易公募型競争	該当なし	
			その他の指名競争	該当なし	
		随意契約	公募型プロポーザル	該当なし	
			簡易公募型プロポーザル	該当なし	
			標準型プロポーザル	該当なし	
	その他の随意契約		0 件		
	物品・役務等	一般競争	11 件	うち、1者応札案件 4 件 契約の相手方が公益社団法人等の案件 0 件	
		指名競争	該当なし		
		随意契約(企画競争・公募)	該当なし		
随意契約(その他)		0 件			
(特記事項)					
委員からの意見・質問、それに対する回答等	意見・質問		回答等		
	1 抽出案件の林道工事B005について 入札参加の2者の入札価格差が大きい、どのように考えるか。形だけ入札に参加したとは考えられないか。		1 入札参加の2者の内、落札者は過去入札に参加したことがあるが、もう1者は初めての参加である。初めての参加ということで、積算方法等馴れていなかったことが考えられる。 参加業者が少ない現状の中で、新規参入者があることは、競争性の観点から、今後に関係があると考えている。		
	2 抽出案件の治山工事A019について 1回目の入札では2者の参加があったが、不落札となり、2回目では1者が入札を辞退しているが、何故辞退したと考えるか。落札の意思があり、入札に参加しているはずであるが、何故辞退するのが疑問である。		2 1回目の入札価格が予定価格を超えたと判明した時点で、経営判断としてそれ以上入札に参加しないことは企業として合理的なものとする。 他工事の受注状況等も踏まえて、入札への参加、辞退等を判断していると推察する。		
	3 抽出案件の治山工事A006について 本件では、1回目の入札から辞退者がいるが、何故か。		3 入札公告後、参加申し込み受付開始から、入札日まである程度の期間があるので、期間中に他工事の受注ができた場合など、業者側の都合による辞退もあり得る。		

<p>委員からの意見・質問、それに対する回答等</p>	<p>4 測量・建設等コンサルタント業務における総合評価落札方式について、技術評価点のウェイトが大きいとのことであるが、参加者は評価項目や採点方法などの仕組みを理解した上で、参加しているのか。 また、評価が恣意的になっていないか、評価方法の客観性や透明性が確保できているのかが重要なポイントであると考え。</p> <p>5 コンサルタント業務の落札率について コンサルタント業務は、平成22年度50%台であった平均落札率が平成23年度に80%台にまで大きく上昇しているが、何故か。</p> <p>6 造林・生産事業について 協同組合での参加が多く見受けられるが、総合評価落札方式における技術評価では、どのように評価しているのか。組合なら評価が高くなるということはないか。</p> <p>7 抽出案件の生産事業N012について 入札参加4者(1回目)の入札価格差が非常に大きい、どのように考えるか。</p> <p>8 コピー機の賃貸借及び保守管理契約について コピー機の賃貸借と保守管理の契約について、今回多数の契約があったが、それぞれ落札率が高いものもあれば、低いものも見受けられた。 そもそも賃貸借と保守管理を分けて契約することに合理性があるのか疑問である。</p> <p>9 公共工事に係る総合評価落札方式について 技術評価の評価項目の詳細について、参加者は事前に知ることができるのか。 また評価結果については公表しているのか。結果について苦情はないのか。</p>	<p>4 評価項目や評価点の大まかな配分などについては、個別事業毎、入札公告に掲載しており、総合評価落札方式の仕組みについても、技術提案書の作成方法等を含め、公表している。 また、競争参加者には、説明会等で仕組みについて周知しているところである。</p> <p>5 平成23年に低入札対策として、総合評価落札方式の制度改正を行っており、その影響により落札率が上昇したと考える。 具体的には、低入札で落札した場合には、技術者の増員配置を義務づける等の仕組みを導入したところである。 今年の4月からは履行体制についての確認も行うようになり、品質の確保に取り組んでいる。</p> <p>6 一民間団体として、同じ評価項目で評価を行っており、組合だから加算点があるということはない。</p> <p>7 導入している機械や人員の配置等の作業効率により、各業者間で差がでてきていると考える。 本件の発注内容を見ると、ある程度規模の大きい事業(対象地168.75ha)であるため、一本当たりの単価の差は大きくなくても、作業量が大きいと全体の価格差が大きくなってしまう。</p> <p>8 コピー機の賃貸借契約及び保守管理契約については、かつて随意契約を行っていたが、競争性の確保、契約手続きの透明化のため、一般競争入札に移行したところである。 物品の賃貸借、役務の提供である保守管理は、契約の種類が異なること、また支払い方法が定額、出来高と異なる状況にある。</p> <p>9 コンサルタント業務と同様、入札公告時に評価項目別の大まかな配点について、公表しているので、参加者は理解した上で入札を行っている。 評価項目の細部については事前事後公表はしていないが、評価結果の評価値は公表されており、疑問がある場合は、個別に対応している。</p>
<p>委員会による意見の具申又は勧告の内容</p>	<p>特になし</p>	

関東森林管理局入札監視委員会苦情処理会議審議概要

開催日及び場所	平成24年9月25日(火) 関東森林管理局4階中会議室			
委員	紺 正行(委員長・弁護士) 大泉 寛(税理士) 若旅俊洋(ジャーナリスト)			
再苦情申立概要	申立日	件名	契約方式	契約月日
	H . .			H . .
	内容等 該当なし			
委員からの意見・質問、それに対する回答等	意見・質問		回答	
委員会による意見の具申又は勧告の内容				